

10) 日本における医・歯学の学位制度の起源とその発展 —歯科医師の立場より—

Studies on the Doctorate System of Medical and Dental Science in Japan—From the Standpoint of Dentist—

仙台市, 杉本歯科口腔外科 ○杉本是孝, 中山孝子

Koretaka Sugimoto and Takako Nakayama, *Sugimoto Dental Oral Surgery, Sendai City*

日本における学位令（いわゆる博士号授与）は、1887年（明20）勅令第13号で初めて定められ、次いで1898年（明31）改訂されて、勅令第349号により1920年（大9）まで旧学位令による学位が授与されている。

その後、同年（大9）勅令200号で新（旧）学位令が定められ、1953年（昭28）に学校教育法の制定にともなって、旧学位規定は廃止された。

そこで、医・歯学の立場から日本における学位制度の起源とその発展について、1887年（明20）学位令公布から1920年（大7）まで2回の改訂まで（第Ⅰ期、および第Ⅱ期とする）の33年間について、調査し得た項目について分析を行った。

また、歯科医師が初めて学位を受領した1923年（大12）以降、1947年（昭22）の学校教育法制定まで（第Ⅲ期とする）については、歯科医師の立場から検証し、極めて興味ある調査結果を得たので、考察を加えてその概要を報告する。

1. 第Ⅰ期（勅令第13号、1887～1898年）

わが国の学位令は、1886年（明19）3月、帝国大学令が公布され、東京大学が帝国大学と改組されて大学院がおかれたとき、それに合わせて翌年1887年（明20）3月に勅令第13号とし発令された。そのときの学位は博士と大博士があった。博士は法学、医学、工学、文学、理学の5種で、いずれも帝国大学評議会の議を経て、文部大臣が授与することになっていた。資料によると、1991年（明24）まで30人全員が東大教授または関係者であった。翌年1892年（明25）にはじめて学位請求論文を提出して2人が医学博士の学位を授与されている。

大博士の学位は「博士の会」に付して閣議を経て文部大臣が授けるという大変なものであったので、意見がまとまらず、一人も受けないまま廃止された。

2. 第Ⅱ期（勅令第344号、1898～1920年）

1918年（大7）に新しい大学令が公布され、これに伴って、公私立大学と単科大学で学位審査が可能となった。この勅令は1960年（昭35）まで暫定措置がとられたため、学位受領者は著しく増加し、68,828名に達した。この勅令200号公布の時期になって、歯科医師が論文を提出して学位が授与される様になった。

3. 歯科医師の学位受領の実態（初期）

1) 歯科医師で医学博士の学位を得た創始は、1923年（大12）6月7日、慶応義塾大学医学部教授会を通過した花澤 鼎をもって第1号とし、わが国における歯科医学の進歩と向上発達が、一般の学者より是認せられた証拠であると称されており、学位取得の突破口を開いた。

2) 歯科医師で、学位受領者（初期）30名のうち審査大学別では国立大学18名、公立1名、私立11名であった。

3) 上記の提出した主論文を研究分野別に分類すると30編のうち形態的分野が20編約2/3を占めていた。

4) 30名の学位受領時の年齢をみると、平均年齢が満38.3歳であった。最高年齢は50歳1名、次いで49歳1名、最年少は30歳1名であり、当時は歯科医師として、医学部において学位を得ることは、かなりの年数を要したことが伺われる。

5) 日本において女性歯科医師で最初の医学博士受領者二之宮千代子は、慶応義塾大学医学部において、1943年（昭18）5月で、17年間の研究成果の結晶であった。花澤 鼎より20年後、日本に学位令が公布されてから56年を経ている。

6) 日本における歯学博士の学位は1953年（昭28）、文部省令第9号の学位規則で初めて公布されて、新制大学院による第1号（平田幹男）は、東京医科歯科大学歯学部において1959年（昭34）3

月 31 日付であった。

以上、日本における学位令（いわゆる博士号授与）は、1889 年（明 20）に初めて勅令により公布され、現在すでに 110 年を経過している。その間 2 回の学位令改定、さらに学校教育法の制定により、極めて多くの受領者を輩出している。

しかしながら、学位令公布の初期には、歯科医

師は教育機関の関係から、永年にわたり大学院が認可されている医育機関に審査権をゆだねている。従って当時の学位取得への道は険しい道程であり、歯科医師が学位を取得していくことは、歯科医師の地位向上と偏見を取り除くために大きな原動力となったことが推察される。